



横浜市立本町小学校 学校運営協議会【記録】

本町小学校学校運営協議会だより

令和5年度 横浜市立本町小学校 第2回学校運営協議会 が開催されました

➤ 学校ホームページ等での公開版では、個人名の表記をいたしません。

1. 〈日 時〉 令和5年9月8日(金) 12:40～14:40

2. 〈参加者〉 9名(他事務局2名) 〈欠席者〉 5名

3. 120周年事業について学校より説明(12:40～13:10)

(1) 開会挨拶および創立120周年事業について説明(校長)

① 実行委員長・組織について説明および提案

⇒ 学校運営協議会の委員の方から承認を得た

⇒ 実行委員長より

- ・大役を仰せつかった。本町小のために、ぜひ力を注いでいきたいと思っている。
- ・皆さんからのサポートをお願いしたい。

② 今後の予定・予算について説明および提案(柳下)

③ 委員の方からの意見

- キッズでは、ドッジボールのプログラムなど子どもが集まれるように考えている。そうしたことも生かせるといい。
- 過去に式典に参加するなど周年行事を経験している。前もってやっても問題は起きるもの。ぜひとも協力させていただきたい。
- 今でも自分は、同期の仲間と集まっている。今の児童の皆さんの思い出になるようにしたい。
- みなとみらい本町小も一緒に何か考えていきたい。せっかくのつながりを生かしたい。
- 110年の時は準備が十分でなかったと感じている。音楽会をやったが、ホールと事前の調整不足でリハーサルもできず、バタバタしていた。この提案のように、方向性がしっかりと見えているとよい。
- 子どもが意見を出しながら、大人が支えていけるとよい。子どもの組織・分担ができるとよい。もしくは、組織案に子どもも入れていってはどうか。
- スケジュールを見ると大変そうだが、子どもが携われるのはいいこと。大人の世界に子どもも入って

いけるとよい。

4. 授業参観(13:10~13:55)

本校重点研究「授業研究会」、2年生「生活科」、6年生「総合的な学習の時間」の授業を参観



5. 協議(14:00~14:30)

- (1) 本町小の取組について説明(事務局)
- (2) 協議

- 9月1日に、学校地域コーディネーターの研修会に出た際に、総合のやり方について授業を受け、先生の準備、職人さんなど人を探すのが非常に大変と感じた。本町小学校の場合は、お店も周辺にあるし、職人さんって呼ばれるような方もたくさんいるので、いろんな方に声をかけていくことはできそう。ただ、授業で形にしていくというのが非常に難しい。2年生が、野菜を畑で植えるか、植木鉢で育てるか話していたが、最終的には、色々協力してくれた人に野菜をあげたいと言っていた。とても素晴らしかった。単に野菜を育てるのではなく、思いやりの気持ちも育っている。
- 総合は、子ども達はとても好きだ。総合がある日はとても喜んで学校に行っている。家庭では、地域の方や施設と関わるのがあまりできていないので、学校でこういう機会があるのはありがたい。資料を見て、1時間の授業の準備に時間を割いてくれているのが伝わってきた。先生方には感謝でいっぱいである。
- 学校の先生たちの、下準備がすごく大変だと感じた。このように授業で深掘りをしていけば、子ども達の興味がさらに高まると感じた。子ども達の表情もよくとても楽しく見させていただいた。
- 見せてもらえて本当によかった。2年と6年とで比べてみると、6年生になると一般社会のことを理解できるまた意思を表現できるようになると実感した。どちらの教室も静かに感じた。子ども達の会話が、子ども達や先生は聞こえているのかなと思った。
- 各学級、「授業中は相手に伝わる声で」と声の大きさを意識するよう指導をしている。
- 先生と子どもが通じ合っていて感心していた。とても和やかな雰囲気、先生と繋がっていた。聞こえているのか気になったけれど、とても感心していた。今後ともよろしく願います。
- 6年生が大人が分かるように自分の言葉で話していた。本町の周りのことを1つ1つ理解して、ここが大切、一番素晴らしいっていうものをしっかり見つけていた。体験をしたのだろうと思った。2年生で1番びっくりしたのは、2年生なりの言葉だが、思ってることを上手に話していた。その子なりに自分の言葉を伝え、周りの子はそれをしっかりと聞いているのを見ていた。また、子ども達はオクラのなり方を知っていた。自分はオクラのなり方をずっと知らなかったが、体験の大切さを感じた。自分たちだけで収穫して、それを食べるのではなく、プラスアルファの感情がたくさんあり、本当に安心した。
- 6年生の授業を見せてもらったが感動した。7年間で確実に積み重なってきているのをつくづく感じ

た。子どもが自分をどう育てて、どう自分で学びを作ってデザインしていくかというのが究極だと思うが、あの6年生のクラスの子たちが「全員参加する」というレベルでなくて、「1人1人が自分の意見を発しながら、学びの場をみんなで作っていた」のがすごいことだと思う。6年生の姿を見て、本当にこの学校の子供たちの育ちが、積み重なりの中であれだけでできてるのだとびっくりしたし、感動した。

- 自分は校長でないが、とても嬉しい気持ちでいっぱい。8年前に10年限定の学校ができると言われた時に、未来へ繋がる心という歌を6年生が自分たちで作った。今一緒に勉強してる子たちと別れてしまう、そこをなんとか繋げていきたいということで、生活科総合の時間を、別れる前の年に取り上げた。「材」には、「人・もの・こと」とある。本町小学校は、「もの」はたくさんある。ここにいるような素晴らしい「人」もいっぱいいる。もう一つ本町が分かれるという「こと」に向けて1年間 しっかり生活・総合をやっていくことが大事なのではと思ってやったのが、今でも繋がっていて非常に嬉しく思った。
- もう1つ嬉しかったのが、5年前退職した時に自分と入れ替わりで入ってきた先生が今日授業した。教育実習からやる気満々の先生で、その人が初めての6年生の授業。今日はクラスの子が半分以上いない状況で、しかもおそらく授業を作っていくような発言する子たちがいなかったにもかかわらず、残った子たちでもあれだけ本当の思いを伝えられた。そういう学級の雰囲気を作ってることが、とても嬉しかった。やはり授業は、その学級の雰囲気ができてないと難しいというのをまた改めて感じた。
- 保護者や地域の方に、今日もここよかったよねと言われて、教師は育つと思う。教師は、現場の中で育っていく。子どもと向き合って子どもと一緒に授業を作り、学校の職員同士や、保護者、地域の方など外から来た人がぎくばらんと言ってくれたものを受け入れないと教師は育たないと思うし、話ができなきゃいけないと思う。コロナの3年間、家庭に子どもが入ってしまった。地域とか地域性とか、家庭の考え方とかは、オンラインをやっても見えてこないし、子どもは育たない。家庭と違うから学校に来る。今日、2年生同士で、言ったことに対してまた反応していた。2年生なのにここまで言うかと思った。650個もイチゴ作れるのかとか言って、面白かった。学校は、みんなが集まって、先生がいて、そうやって次から次に今そこで授業が作り上げられていく。オンラインも1つの方法ではあるけど、やっぱり集まって、顔を合わせて、保護者に見ていただいたり、先生同士が見合ったりして、教師も子どもも育つのだろうとしみじみ思った。

6. 今後の予定について

- ・第3回学校運営協議会；全職員が参加してグループ討議